

平成28年度地域包括支援センター事業評価  
⑪ 馬橋地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市

## 1. 組織／運営体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		3	2		
評価の根拠	ア.「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ.「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ.担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成28年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いない			
	エ.ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】				
	オ.「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	毎月の月報作成時等に確認。業務改善については、気づいた時に職員会議等で話し、改善している。			
	カ.その他【任意・自由記入】	事業の内容は包括職員内の会議等で適宜検討している。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。		3	4		
評価の根拠	ア.担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	29年4月1日現在（9,100）人			
	イ.担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	29年4月1日現在 独居世帯数（2,244）世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数（5,857）人			
	ウ.担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	29年4月1日現在（4,338）人			
	エ.担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	29年4月1日現在 独居世帯数（1,293）世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数（2,991）人			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		3	3	高齢者からの「休憩できる場所を知りたい」というニーズに対して、地域ケア会議で情報を持ち寄り、最終的に地域のつどいの場の地図を作成し、配布した。	
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	地域ケア会議、馬橋地区社会福祉協議会評議員会、地域密着型施設の運営推進会議の折の地域の方の発言等により把握している。			
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	高齢者からの「休憩できる場所を知りたい」というニーズに対して、地域ケア会議で情報を持ち寄り、最終的に地域のつどいの場の地図を作成し、配布した。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項	
④個人情報保護の徹底を行っているか。		3	3			
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる				
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる				
	ウ. 個人情報の管理のために行っている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	個人情報 は 鍵のかかるロッカーに保管している。パソコンはパスワードをつけている				
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いる				
	オ. その他【任意・自由記入】	個人情報開示請求はなかった。 包括独自の個人情報保護マニュアルを整備している。				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項															
⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。	4	3		ア:連絡がありそうなケースは事前に法人に伝えておき、連絡があった際はすぐに対応できるようにしている。															
ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	夜間の電話は法人へ転送される。夜間連絡が予測される場合は、利用者にあらかじめ「電話は転送されるが、連絡は取れる」旨伝えている。また、法人の宿直者に連絡を入れている。夜間連絡が必要な場合は公用携帯電話を利用している。																		
イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>2 件内( 2 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>2 件内( 2 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>1 件内( 1 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5 件内( 0 件)</td> <td>件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	2 件内( 2 件)	件)	面接	2 件内( 2 件)	件)	電話	1 件内( 1 件)	件)	合計	5 件内( 0 件)	件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	2 件内( 2 件)	件)																	
面接	2 件内( 2 件)	件)																	
電話	1 件内( 1 件)	件)																	
合計	5 件内( 0 件)	件)																	
ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	土曜、休日の電話は法人へ転送される。予測される場合は利用者にあらかじめ「電話は転送されるが、連絡は取れる」旨伝えている。利用者の都合で土曜、休日の訪問を希望される場合は、土曜、休日に訪問している。																		
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>15 件内( 11 件)</td> <td>4 件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>10 件内( 10 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>18 件内( 10 件)</td> <td>8 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>43 件内( 31 件)</td> <td>12 件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	15 件内( 11 件)	4 件)	面接	10 件内( 10 件)	件)	電話	18 件内( 10 件)	8 件)	合計	43 件内( 31 件)	12 件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	15 件内( 11 件)	4 件)																	
面接	10 件内( 10 件)	件)																	
電話	18 件内( 10 件)	8 件)																	
合計	43 件内( 31 件)	12 件)																	
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>0 件内( 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0 件内( 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>0 件内( 件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>0 件内( 件)</td> <td>件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	0 件内( 件)	件)	面接	0 件内( 件)	件)	電話	0 件内( 件)	件)	合計	0 件内( 件)	件)			
	本人又は親族	その他																	
訪問	0 件内( 件)	件)																	
面接	0 件内( 件)	件)																	
電話	0 件内( 件)	件)																	
合計	0 件内( 件)	件)																	
オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない	いる																		
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	・認知症サポーター養成講座 ・年2回開催されている、馬橋地区社会福祉協議会の評議員会の折等にPRしている。																		
キ. その他【任意・自由記入】	法人職員も緊急性の判断ができ、連携ができています。																		

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		2	2		
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(28年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 0 件 (内センター自体の苦情 0 件)			
	イ. 「28年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 時間 連携機関:			
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している／いない	いる			
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	法人全体の苦情窓口について、文書を相談窓口に掲示している。			
	オ. 重大な苦情の内容及び対応内容を決定し、関係機関と共有している／いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	地域包括開設以来「重大な苦情」はなかった。苦情は法人全体で取り組むという姿勢から、包括の管理者には法人の責任者を位置づけている。			

## 2. 人員体制

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。		2	3		
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : ( 0 )日 社会福祉士 : ( 240 )日 主任介護支援専門員 : ( 0 )日			
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職/専門職総数)を記入】		42.80%		
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成29年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 18.2 月			
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	27 回			
	オ. その他【任意・自由記入】	社会福祉士の欠員期間は管理者(社会福祉士)の応援体制を組んだ。欠員の職員募集に関しては職業安定所、市のホームページ、千葉県社会福祉士会のホームページで行った。職員会議で研修報告や情報共有を行っている。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②専門職間の連携を効果的に行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成29年3月末現在在籍している全ての専門職について記入	① 25 ② 28 ③ 39 ④ 37 ⑤ ⑥  平均 31.5 点			



### 3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項	
①相談内容の把握・分析を行っているか。	3	3			
評価の根拠	ア. 分類別の相談件数 (28年度1年間)  a.本人又は親族への支援 【件数を記入】  b.本人又は親族以外の機関に 支援 【件数を記入】	<b>a.本人又は親族への支援</b> 介護に関する相談 1014 件 健康・医療に関する相談 167 件 経済的相談 87 件 介護予防相談 197 件 家族調整に関する相談 38 件 権利擁護に関する相談 89 件 諸制度に関する相談 38 件 その他 60 件 総計 1690 件  <b>b.本人又は親族以外の機関に支援</b> 介護に関する相談 306 件 健康・医療に関する相談 123 件 経済的相談 38 件 介護予防相談 93 件 家族調整に関する相談 34 件 権利擁護に関する相談 64 件 諸制度に関する相談 24 件 その他 15 件 総計 745 件	/		
	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】 ※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	全体的に相談件数は少ない。介護に関する相談は他包括と同程度であるが、健康、医療に関する相談、経済的相談等は少ない。地域住民や民生委員の見守りが機能しているのかと思われる。今後も民生委員等の連携を強めていきたい。			
	ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない	いる			
	エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。	3	3		
ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている/いない	いる			
イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	70代。夫婦2人暮らし。腎不全を患うも透析開始時期を逸し治療が出来ない状態。病院からは余命3ヶ月、意識がなくなった時入院できるような手筈はできていると言われていた。両下肢の壊死が見られるようになり、体力筋力ともに低下しており訪問看護のサービスが必要と判断するも家族から病院と手筈ができており余命も僅かと言う理由で介護保健申請を拒否された。病院と連携し、介護申請を進めて行こうとした矢先に本人入院となり、死亡された。			
ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	80代。50代子と2人暮らし。本人は過去に精神分裂病と診断されたが納得がいかず以後医療拒否。子は器質性精神病であるが、受診しており、訪問看護も受けている。子の本人に対する暴力があるが互いに相手を心配し、依存している面もある。保健所精神保健相談員と連絡を取り合いながら包括は本人の支援を担当しヘルパーによる掃除支援を入れる、市役所からの文書が届いた時の支援などの対応をしている。			
エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	70代。配偶者、子と生活していた。たびたび徘徊し様々な場所で発見される。異性が訪問すると気に食わず激昂する。通所介護は拒否なので訪問型サービスを利用していたが、配偶者がストレスで体調を崩してしまい、そのため子が介護しなくてはならなくなり子も疲れ切ってしまった。一刻も早く入所させたいという希望があり、包括は有料老人ホームを探し入所となった。			
オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	事例なし			
カ. その他【任意・自由記入】				

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。		3	3		イ:通所介護事業所で定休日に、場所を提供してくれることとなり、オレンジ協力員や民生委員等の交流の場として、活用している。将来的には認知症カフェのような地域住民が集える場にしたいと考えている。
評価の根拠	ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる			
	イ. 職員が依頼に基づき参加した関係機関・組織における全ての会議・行事等(※)の日程・テーマ 【日程・テーマを記入】 ※①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント(テーマ記入不要)、②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント、③地域密着型サービス事業者の運営推進会議に大別して記載(地域ケア会議や医療関係者とのカンファレンスなどを除く)	①馬橋地区社会福祉協議会評議員交流会 4/23 1/21 ②グリーンウィズ 家族会 1/28 エスケアライフ納涼祭 8/26 ③運営推進会議 明音色ゆいまーるハヶ崎 5/17 7/13 9/14 1/11 3/8 エスケアライフ・ホーム 5/28 7/23 9/24 11/26 1/28 3/25 グループホームマーガレット 5/13 7/1 9/9 1/13 3/3 元気ホーム 5/21 9/24 11/19 1/21 3/25 ひなたぼっこ 9/5 デイサービスまばし 2/15 みらくるハヶ崎 2/24 グリーンウィズ 7/23 だんらんの家まばし 2/15 ひぐらしのいえ・となりんち 3/22 デイサービスふじ 10/17 元気定時巡回訪問介護 3/14			
	ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している/いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】	地区社会福祉協議会主催のサロン4か所に出向き、虐待防止ネットワーク市民向け講演会のPR、熱中症についての話等を行った。また、地区社協の評議員となっているため、地域サロンの検討や市社協への協力依頼を行った。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④地域の社会資源について把握を行っているか。		3	4	地域ケア会議で、高齢者のつどいの場がどこにあるか知りたいとの意見がでたため、会議参加メンバーとともに「高齢者のつどいの場」のマップを作成した。休憩できる場所(喫茶店、スーパー、コンビニ等のフードコート)や公園のベンチ、トイレも載せた。	
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(○ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 4 ヶ所 圏域外 3 ヶ所			
	イ. アの地域の社会資源を開発するために行っている方策【自由記入】	通所介護事業所の協力を得て、オレンジ協力員の交流の場を作った。			
	ウ. 地域の社会資源やその情報の収集方法【自由記入】	地域ケア会議、民生委員との連携、地域密着型施設の運営推進会議などで情報を収集している。			
	エ. 地域の社会資源に関するマップやリストを作成している／いない	いる			
	オ. 地域の社会資源に関するマップやリストを逐次見直している／いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】				

#### 4. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。		3	2		
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	老人保健施設より利用者の特別養護老人ホーム入所申込みを行ったところ「配偶者の状況をみると成年後見人を付けてほしいと求められた」との相談を受けた。配偶者と共に相談機関に相談したが、「配偶者自身も申立てを行う能力には欠けている後見人を付ける必要がある」との見解であった。申立てをできる身内もなかったため、配偶者の要介護認定申請、後見人要否診断書の作成支援等を行い、夫婦ともに市長申立てを依頼した。			
	イ. 成年後見制度活用につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	ケース数は他包括と同程度である。今後も必要と思われる場合は、成年後見制度の利用を支援したい。			
	ウ. 日常生活自立支援事業につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	ケース数は他包括と同程度である。今後も必要と思われる場合は、日常生活自立支援制度の利用を支援したい。			
	エ. その他【任意・自由記入】				

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		3	3		
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事案の件数(28年度1年間)【件数を記入】	1件			
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる			
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	飲酒した配偶者が本人に暴言を吐いて本人が警察を呼んだ。配偶者は本人が10日間帰省したことに腹を立てた様子。通報の翌日本人宅を訪問。配偶者が反省したため現在は同居。2人の子とも話し合いを行い次になにか騒ぎを起こしたら離婚をすること。経過観察中。			
	エ. その他【任意・自由記入】				

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。		2	3	イ: 近くの公園に移動交番が来た際に情報提供してもらい、各所でチラシ等を用いて周知している。	
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	定期的な情報交換は行っていない。相談を受けた時に消費者センターに対応を相談している。			
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	パンフレットを配架している。移動交番が行われた際に警察より電話で詐欺等の情報提供されることがあるので、チラシ等を配架等して活用している。			
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の日程・内容・主な参加者層・参加者数【日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	28年7月12日市民向け講演会 テーマ「弁護士さんに聞く 高齢者の認知症と経済的虐待」講師 みぎわ法律事務所 神保正宏 弁護士 参加69名 民生委員、ケアマネ、包括職員、一般市民等			
	エ. その他【任意・自由記入】	松戸市版アセスメントシートに「悪徳商法への注意」という項目があるので、アセスメント時には情報提供している。			

## 5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	2	2		
評価の根拠	ア. 28年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【件数を記入】	497 件		
	イ. 「28年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	お金の管理が自分ではできず、年金を全て下ろして使ってしまう、ライフラインが止まってしまう、ケアマネから支援依頼があった。根気よく訪問し、信頼関係を作り、ライフラインが止まる度に支援しながら、お金の使い方を話していった。地域ケア会議で検討し、年金支払い時に訪問し、必要なお金を封筒に分けるというアドバイスを受け、光熱水費、家賃を「命のお金」と分け、滞納支払ができた。その後、すべて自動引き落としの手続きをし、年金支給日前に命のお金を残して引き下ろすことを促し、それができるようになった。その後、小規模多機能につながった。		
	ウ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	0 回		
	エ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】	未実施		
	オ. その他【任意・自由記入】			



評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。		3	3		ア・ウ:介護支援専門員との同行訪問やサービス担当者会議への出席回数が多く、地域の介護支援専門員と密に連携がとれている。
評価の根拠	ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。	184 件			
	イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】	70代、独居。脳梗塞後遺症による左片麻痺。ヘルパーの支援が必要な状況であるが、ヘルパーに多大な要求をしたり、見下すような態度で接したりするため、ヘルパーが定着しない。本人と話したくても一方的に「ヘルパーを探してほしい」と言うだけで拒否されてしまう。原則的なケアマネジメントが出来ない状態で何とか週2回のヘルパー訪問だけ続けている。主治医と連絡を取り相談しようとしている。			
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(28年度1年間)【件数を記入】	99 件			
	エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】	70代。認知症あり要介護3、糖尿病のためインシュリン注射が必要である。近居の子は介護力がないため、特養入所を勧めたが子が拒否。デイサービスとショートステイ利用時、おむつ交換されおらず、薬管理も不十分。ヘルパー、訪問看護は子が拒否。家の中はゴミだらけでケアマネも足を踏み入れることができていない。現在対応について検討中。			
	オ. その他【任意・自由記入】				

## 6. 地域ケア会議関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。	3	2	通所介護事業所で定休日に、場所を提供について、申し出があり、地域ケア会議参加者の了承を得て、月曜日にオレンジ協力員の交流が行われるようになった。	ア:平成28年度までは事例やテーマは全て包括で検討・決定していたが、平成29年度からは関係機関等から事例を検討・提出してもらうことにした。
評価の根拠	ア. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いない	地域ケア会議で、高齢者のつどいの場がどこにあるか知りたいとの意見がでたため、会議参加メンバーとともに「高齢者のつどいの場」のマップを作成した。休憩できる場所(喫茶店、スーパー、コンビニ等のフードコート)や公園のベンチ、トイレも載せた。	
	イ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】			
	ウ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる		
	エ. ウが「いる」の場合に、当該地域個別ケア会議の事例と参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【職種を記入】	【職種】NPO法人のボランティア 地域で見守りが必要な認知症の事例 相談者の家庭菜園の収穫前の野菜を高齢者が持って行ってしまうという相談。同居中の次男夫婦が見守っているが、家から出ていくようになってしまった。包括職員が訪問。本人妻が生存中は妻が庭で野菜を作り本人が収穫する役割だった。野菜を持って帰っても食べるわけではなく外に置いてある。次男夫婦が注意しても効果がない。ボランティアを行っているNPO法人を迎えて地域個別ケア会議の事例とした。		
	オ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議事録)を参加者間で共有している／いない	いる		
	カ. その他【任意・自由記入】			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		2	2		
評価の根拠		該当事例なし			
	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】				
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる			
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】				

## 7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。	3	3		
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	高齢者と亡くなった同居異性の連れ子と二人暮らし。高齢者が3日に1回入浴しているが衣服を取り替えず、毎回尿漏れがあるため清潔が保てず悪臭があった。また体力と筋力が低下し通院困難でもあった。高齢者の健康相談と称し訪問し病院受診を勧めていき介護保険申請に結びつけた。		
		60代、独居。癌が肺に転移。通院を包括が支援していたが、体力低下等のため、在宅診療申込み手続きを支援した。小規模多機能型居宅介護を利用し入浴等を支援していたが、最期は泊りを利用して看取ることができた。		
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	60代、子と2人暮らしの90代。認知症で妄想や幻視で不穏になっており、子の押さえのきかない状態。警察保護されることもしばしば。子の介護疲労が強いため、担当医に相談し、入院する病院を紹介してもらい、病院と連携しながら入院させた。		
		認知機能、筋力低下が著明で病院受診ができていない83歳独居。病院と連絡を取り打ち合わせを行い、一般健康診断時に脳の検査も行い、介護保険申請に結びついた。		
	ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	70代、独居。生活保護担当者から支援依頼があった。受診する意欲がなく包括職員が説得し同行受診。脳及び身体検査を行い介護保険申請する。後日訪問すると自宅で倒れている所を発見。包括職員が救急車を呼んで入院。MSWと連携し退院後に小規模多機能型居宅介護に繋いだ。		
	60代。脳梗塞発症。急性期病院からリハビリ病院へ転院。MSWより退院支援の依頼あり。病院訪問し、本人と面接。玄関手すりレンタルと訪問リハビリを希望。ケアマネを依頼し、病院へ同行する。サービス調整し、退院と同時にサービス開始。			
エ. その他【任意・自由記入】				

②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。	3	3		地域サポート医事業の利用はなかったが、普段からサポート医に相談できる関係が構築されている。
評価の根拠	ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(28年度1年間)【件数を記入】※相談支援件数・アウトリーチ件数・合計を記入	相談支援件数 0 件 アウトリーチ件数 0 件 合計 0 件		
	イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	事例なし		
	ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するために行っている具体的な方策【自由記入】	利用者の主治医と連絡を取り合う。医師会の取り組みに参加する。		
	エ. 医療関係者と合同で参加した全てのカンファレンス・研修の日程・テーマ【日程・テーマを記入】	6/25千葉認知症研究会 7/12・1/17東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症疾患医療センター合同連絡協議会 7/21かかりつけ医認知症対応力向上研修 8/22鎌ヶ谷精神医療懇話会 1/7認知症疾患医療センター研修会 1/11認知症リハビリテーション研修 2/19高次脳機能障害研修会 2/1まちっこプロジェクト報告会 3/9千葉県認知症サポート医研修会 3/16地域リハビリテーション調整者養成研修 3/24MSWとCMの交流会 3/27在宅医療介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会		
	オ. その他【任意・自由記入】	・医療機関未受診であった80代の受診を支援。以後在宅診療となり、要介護認定申請代行。看護小規模多機能型居宅介護につなぐことができ、生活環境を整え、外出の機会を持つことができるようになった。 ・70代、独居。未受診であったが過去に糖尿病と診断されているとの本人の話。サポート医への受診に同行し、要介護認定申請代行。訪問介護による掃除支援、服薬確認を開始することができた。		

## 8. 認知症高齢者支援

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。	3	3		
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	1 件		
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容【自由記入】	80代、独居。ペースメーカーを装着。呼吸困難あり。認知機能の低下で通院服薬ができなくなっていた。拒否が強く、包括が根気強く訪問し、人間関係を作りながら呼吸困難治療のための受診につなげ、精査入院となる。退院後から認知症初期集中支援チームにつないだ。包括、チーム員同行受診して医師と連携。薬を一包装して服薬管理しやすくし、チーム員の看護師が訪問毎にSPO2測定し、医師に報告。在宅酸素療法開始により脳への酸素量が増えたため、理解力が上がり拒否がなくなったため、CMIにつないで、訪問看護を開始できた。		
	ウ. DASCを活用した軽度認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(28年度1年間)【件数を記入】	2 件		
	エ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	80代。2人暮らしだが日中独居。下肢筋力低下がありほとんど引きこもりで介護保険サービス利用に対して抵抗がある。数回訪問し信頼関係を作りDASCを行い軽度認知症と判明する。家の外に出る必要性を説き本人の運動意欲を引き出すことに成功。ケアマネに結びつけ介護保険サービスを利用開始する。		
	オ. その他【任意・自由記入】			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。		3	3	イ: 認知症予防教室にオレンジ協力員も参加してもらうことにより、認知症の方に対する見識を深め、オレンジ協力員同士の交流にもつながり、その結果「オレンジ協力員交流会」が開催されることになった。	
評価の根拠	ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	16 件			
	イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動(1事例)の内容【自由記入】	認知症予防教室を行う際、オレンジ協力員にセッティングやかたづけを積極的に手伝ってもらいスムーズな進行につながった。認知症の講話を参加者やオレンジ協力員と共に聞いたことで特にオレンジ協力員は認知症に対する見識を更に深め、オレンジ協力員同志の交流に繋がり、その後「オレンジ協力員交流会」が出来上がっていった。			
	ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程、主な参加者層及び参加者数【日程・主な参加者層・参加者数を記入】	1. 28/5/10 19人 老人クラブ会員 2. 28/7/1 14人 デイサービス職員と近隣住民 3. 28/10/27 19人 馬橋地区社会福祉協議会理事会 4. 29/2/2 20人 地区社協主催サロン 5. 29/3/8 39人 健康推進員 6. 29/3/27 13人 デイサービス職員			
	エ. 認知症ケアパスの普及啓発のために行っている具体的方策【自由記入】	徘徊があることは把握しているが、市が家族の確認を取って包括に連絡したが訪問を断っている事例。認知症ケアパス、包括のパンフレット等をポストに入れて様子を見ている。			
	オ. その他【任意・自由記入】				

## 9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	3	3		
評価の根拠	ア. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	<p>デイサービスを週2回利用の方。唄うことが大好きなので、外出して人と交流し、歌を歌う機会を持つことにより、健康増進、生きがいのある生活を送ってほしいと考え、馬橋地区社会福祉協議会が開催しているひまわりサロンを紹介し、行くようになった。</p> <p>サービスを利用したいと包括に来られたが、基本チェックリストを実施したところ非該当であったため、介護予防教室に結びつけた。</p>		
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	<p>70代。短期集中予防サービス運動機能向上プログラムを利用したいと本人より相談あり。すでに見学済であり、基本チェックリストを実施したところ、該当であったため、いきいきトレーニングにつないだ。家族の都合で中断したが、24回通所して終了。機能の改善につながった。</p> <p>80代。本人が筋力低下を感じており通所型サービスCを希望された。基本チェックリストを実施すると認知症と運動の項目に該当した。27年度に運動、28年度に認知機能向上プログラムに参加する。転倒を繰り返していた本人が体力と下肢筋力が向上し躓くことがなくなり安定した歩行が出来るようになり、認知症もDASC実施するも悪化は見られなくなった。</p>		
	ウ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	3か月に1回の自宅訪問と毎月の本人への電話や事業所からの利用状況報告の確認等によるモニタリングを行っている。		
	エ. その他【任意・自由記入】	自立支援型ケアプラン検討会に全ての相談員と予防ケアマネが1回以上参加した。		



評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。		3	2		ア:一覧表は作っていない。委託を受けてくれる居宅介護支援事業所を探すことが大変である。職員間で情報共有をしている。
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するためにしている具体的方法【自由記入】	委託先は要支援を受ける居宅介護支援事業所に限定されるため、少ない中から選ばなければならないがその中でも偏らないように配慮している。			
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない	いる			
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる			
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	良いコミュニケーションを取って情報収集をこまめに行う。			
	オ. その他【任意・自由記入】	ケアプラン確認を丁寧に行い、委託のケアマネとの良好な関係を築くよう心掛けている。			

## 10. 松戸市指定事業

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。	4	3	通所介護事業所が定休日に、場所を提供してくれることとなり、オレンジ協力員や民生委員等の交流の場として、活用している。将来的には認知症カフェのような地域住民が集える場にしたいと考えている。	
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 24回 参加総数 673名  ○最多参加数 65名 H28.4.13 対象:75歳前後で歩いて会場まで来られる方 内容:ストレッチ体操 転倒防止体操 脳刺激体操 なのはな体操 ふるさと合唱など		
	イ. センターが開催する認知症予防教室の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 3回 参加総数 85名  ○最多参加数 30名 H28.11.25 対象:75歳前後で歩いて会場まで来られる方 内容:カラオケを唄ったり、曲の人物をクイズ形式にし、当時のはやりや出来事を紹介し、当時を思い出しながら唄う・第一興商の協力によりカラオケ導入し、手作り楽器を振りながら唄う。		
	ウ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】	ボランティアの活動開始を目指して、集まる場を持つことが出来た。		
	エ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	介護保険認定申請代行: 117 件 住宅改修の助言・理由書作成: 5 件 その他:(緊急通報装置取り付け): 5 件 その他:(臨時福祉給付金申請支援): 5 件		
	オ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】	相談業務や介護予防教室、認知症サポーター養成講座や認知症予防教室などの折にサービス内容を簡潔に説明し、希望者には個別に詳細なサービス内容を伝えている。		